

陸平通信

OKADAIRA

2025 年 3 月 1 日発行

編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359

美浦村文化財センター（陸平研究所）

☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471

Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

第Ⅱ期 121号



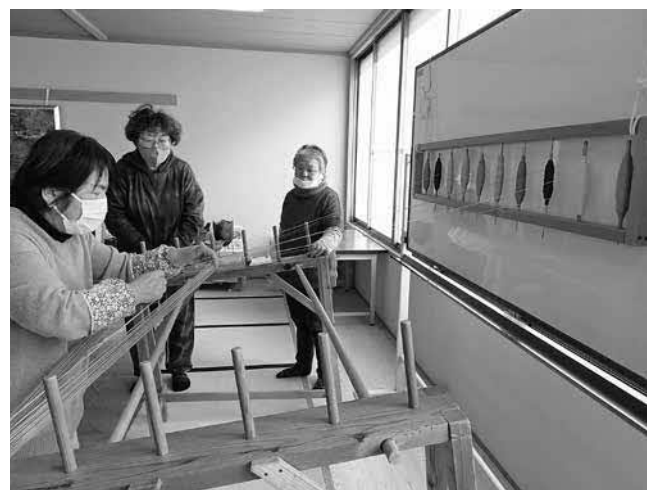
▲箆（おさ）に1本ずつ糸を通します

文化財センターでは1月からはたおり体験をおこなっています。昔使われていた「はたおり機」に糸をかけて織るまでのさまざまな工程を体験しながら昔のくらしに触れる内容です。

毎年夏休みにおこなっている裂き織り体験（あらかじめはたおり機に経糸をかけておき、布を裂いて紐状にしたものを横糸として織る）では織るだけですが、今回は織る前の段階からの体験です。

最初にどのような縞柄にするか色糸を選ぶことから始まり、糸を1本ずつ手で綾を取りながら必要な長さの経糸を用意します。次にはたおり機に設置する箆（おさ）とよばれる道具の細かい隙間に糸を一本ずつ入れていきます。以後も細かな作業が続き、参加者は普段使わない手や指の動作にとまどいながらも、二人一組で協力しながら進めています。作業工程が多いため体験は3月まで続きますが、はた

おり機に糸がかけられて織りあがるのが楽しみです。昔の人の大変さも体感できる、そんな体験です。



▲手で綾をとり経糸を用意

陸平がにぎわう体験増えて学ぶ喜び継げたい（おかだいら縄文フェスタ 2024 より）

安中小学校



▲現在の校舎

江戸時代に寺子屋や私塾の開設が盛んになり、安中地域にも多くの学び舎がひらかれました。村の歴史を探っていくと、江戸時代後半の文化文政年間に八井田の明鏡院で大須賀数馬が西安中を対象に、大山の薬王寺で糸賀具一郎が東安中を対象に塾を開いていた記録があります。以後、幕末までに山内村、山王村、端山村、土浦村、大山村、堀田村、木村などに私塾があり、多くの塾生が学んでいたようです。

明治9年10月、薬王寺本堂に大山学校（大山小学校）が、明鏡院に八井田学校が設立されました。当時は私塾で教えていた人が資格をとって引き続き訓導として教壇に立っていたようです。

明治19年、木原・安中地区を合わせて一学区となったことから、八井田と大山の二校は木原尋常小学校の分教場（分校と同じ意味）となりました。

明治22年に安中地域の村々が合併して安中村となり、また学校の組織もかわると八井田および大山の両分教場は木原小学校からわかれて安中小学校となり、八井田が本校、大山が分校となりました。その後、新教育令により明治25年に八井田尋常小学校、大山尋常小学校の2校になりました。

昭和13年には安中村大山に鹿島海軍航空隊が置かれました。鹿島海軍航空隊の開隊は安中村はもとより、児童にとっても大きな出来事であったことでしょう。昭和15年八井田尋常高等小学校と大山尋常小学校を併合し、安中尋常高等小学校と改称しました。さらに昭和16年国民学校令により安中国民学校と改称されました。昭和18年には新校舎が、現在安中小学校がある高台の場所に完成しました。旧校舎から新校舎へ移る際には児童も机や椅子を運んだりしたそうです。

戦争が終わると国民学校という名称は使われなくなり安中村立安中小学校となりました。そして昭和30年の美浦村誕生とともに美浦村立安中小学校となりました。

翌昭和31年に校庭の拡張工事が行われ校庭が広くなりました。その工事は大規模なもので、工事期間中は児童はじめ中学生や多くの村民が工事を見学した記録が残されています。その後、昭和50年にプールができ、木造の校舎も昭和53年に現在の3階建鉄筋コンクリートに建て替えられ、翌年体育館も完成し、現在の私たちが知る安中小学校の姿になりました。

安中小学校は現在でこそ美浦村の中では一番小規模で児童数も少ないですが、かつてはこの地域に八井田と大山と二つの学校があり、大勢の児童が学んでいました。

小学校の近くに国史跡陸平貝塚があることから安中小学校では陸平貝塚にちなんだ授業や行事などがおこなわれてきました。校内には陸平貝塚から出土した縄文土器なども展示されています。平成8年に発足した縄文太鼓クラブでは児童が練習の成果を学校行事はじめ陸平縄文ムラまつりや産業文化祭、音楽フェスティバルなど村のイベントでもその雄姿を披露してくれました。毎年全校あげての春の遠足や縄文土器作り、古代米作り、村花やまゆり植栽活動など、陸平貝塚をとおして歴史や自然にふれたことは安中小の児童の記憶に残ることでしょう。

〔引用参考文献〕

- 『安中村郷土史』『学校沿革史』八井田尋常高等小学校編 大正13年
- 『沿革誌』大山尋常小学校編
- 『美浦村誌』美浦村 平成7年



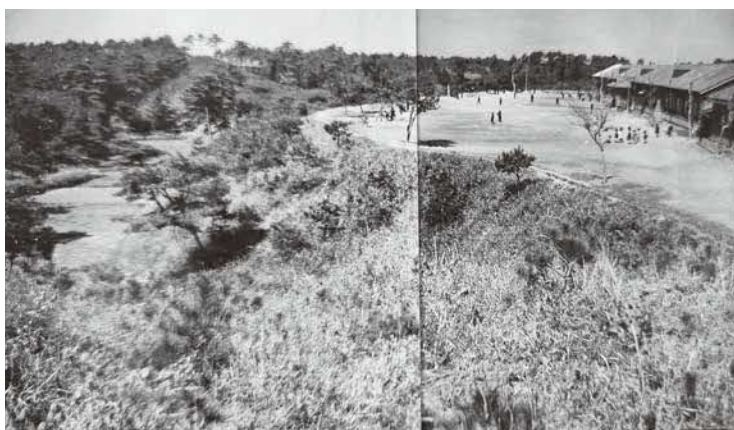
▲昭和初期の卒業式



▲大正時代の卒業式



▲戦後の様子（壁の習字に平和や民主の文字、掲示物のタイトル表示が右から左へ読むなど戦後間もない様子がみられる）



▲木造校舎（右端）と校庭を拡張前の様子



▲建替え前の木造校舎



▲縄文太鼓クラブ



▲毎年6年生は縄文土器作り

安中小学校校歌

一 つくばのみねは 朝日にはえて
 みどりのおかに 日がのぼる
 昔の歴史の めぐみをうけて
 ゆたかな みのりの
 みらいに 生きる
 われらの きょう土
 力合せて 伸びゆく子ども
 ああー われらの安中小学校

二 かすみがうらは 波きよく ふかく
 文化のはなを 咲かせつつ
 高きめあての 姿をうつす
 明るく 正しく
 みらいに 生きる
 われらの きょう土
 楽しく つどおよ わが まなびやは
 ああー われらの安中小学校

陸平をヨイショする会 陸平貝塚の保護活動で表彰

茨城県教育委員会では文化財保護活動に貢献した方への表彰を実施しており、令和6年度表彰者に陸平をヨイショする会（会長市川紀行）が選ばれました。

さる2月6日、茨城県立歴史館で開催された茨城県文化財保存活用セミナーにおいて感謝状の贈呈式がおこなわれ、平成7年の発足より長きにわたる同会の国史跡陸平貝塚の保存活用活動も紹介されました。



▲陸平をヨイショする会 沼崎正美副会長



安中小学校で最後の古代米作り



安中小学校での古代米作りは、平成14年に総合学習で始めてから22年間、毎年5年生が作り続けてきました。今年度は4・5年生合同で5月の種まきから6月の田植え、秋の稲刈り・脱穀、2月に粳すりをおこないました。古代米作りは、新型コロナを境に陸平貝塚公園内の手づくりの田んぼから安中小学校入り口付近の小さな田んぼに縮小して続けられました。児童は米作りをとおして、米がどのようにできて自分たちの食卓に届くかを学ぶとともに、千歯扱きや足踏み脱穀機、唐箕といった今では博物館に展示されている昔の道具を使う体験もしました。令和7年度から美浦小学校がスタートするため令和6年度が最後の古代米作りとなりました。



▲すり鉢を使っの粳すり



▲粳すり後は箕(み)を使って粳殻をとりのぞきます

<情報をお寄せください！> 美浦村の歴史に関する 資料を探しています

文化財センターでは、地域の歴史に関する資料を収集・保存し、後世に伝える活動を行っています。

美浦村の歴史に関する古文書や絵図、地図、写真、古い襖（古文書が使われている場合があります。）などがございましたら、お気軽に文化財センターへご一報ください。

また、鹿島海軍航空隊に関する体験や写真、情報などもお寄せください。常時受付中です。

新緑の陸平でのんびり過ごそう！

縄文体験の日のお知らせ

文化財センターでゴールデンウィーク中に体験イベント「縄文体験の日」を開催します。事前予約なしで土器作りや縄文クッキー作り等の体験ができます！

◆開催日 5月3日(土)、4日(日)

詳しくは今後広報みほ4月号や村HPなどでお知らせします。